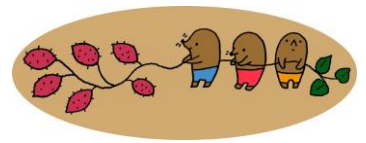


財光寺中学校便り

10月号
文責：鈴木利明（校長）



「福に憑（つ）かれるには、三つの習慣のいずれかが必要らしい。」これは、『「福」に憑かれた男』（著：喜多川 泰）に書かれている文章です。その本の大まかなストーリーはこうです。

小さな書店を経営していた店主の後を息子（秀三）が引き継ぎます。しかし、売れ行きは伸びず困っていました。さらに悪いことに、その書店から歩いてすぐのところに、大型書店が開店しました。売れ行きは落ち込むばかりでした。そんなところに、山本天晴と名乗る老人が立ち寄り本を購入します。この老人との素敵な出会いの中で、老人が若者に色々注文を付けてきます。これを若者は、実行していきます。ここから、奇跡とも言える話が展開します。この老人には福の神が憑いていて、若者を救うチャンスを与えに来たのです。どのようにして、福が憑くようになっていくのか、どうやってこの書店は立ち直っていくのかは、読書の世界で感じてください。

話を戻しましょう。福に憑かれる三つの習慣とは、運が良くなるようにと、様々な形で、三つの習慣を身に付けさせることです。その三つの習慣とは・・・。

「人知れずいいことを繰り返し、その量が一定値を超えた人」

「他人の成功を心から応援、祝福し、その量が一定値を超えた人」

「すべての人を愛することができる人」

これらのうちどれかを満たしている人でなければ、福に憑かれることはないそうです。

このような自己啓発の本を読むと、必ず今の自分を振り返ってしまいます。

「人知れずいいことを繰り返しているだろうか。他人の成功を心から応援、祝福しているだろうか。全ての人を愛することができているだろうか。」

私は、この本を読んでから、少しずつ、この三つの習慣を意識しつつ行動していますが、まだまだ、そのつもりであって、その量が一定値を超えていないようです。

ところで、一定値とは、どんなことだろうかと考えてみました。人は、本来なら「善悪」で判断し行動しなければならないことを、「損得」で判断し行動してしまう傾向にあります。三つの習慣の中で、一定値を超えるというのは、このこと、つまり、損得の判断が善悪の判断になることではないでしょうか。この本に出てくる若者も老人とのやりとりの中で、はじめは、損得（お金儲け）で働いていたのが、いつの間にか自分の本屋に集まる人たちに、眠っていたり、くすぶっていたりする夢に挑戦する勇気をあげたいと思うようになります。誰かが夢を実現する手助けをしたいと感じるようになっていきます。

こんな話もあります。嵐というグループが、どんなに頑張っても売れない時期がありました。その時、メンバーでどうやったら、売れるようになるかを考えていました。そしてたどり着いた結論は、

「売れることなく、喜ばせること」

だったのです。どんなに小さな会場でも、ステージでも、どんなところでも、目の前で応援してくれているファンを喜ばせることでした。AKBも同じで、落ち込んでいるときに届いた一通のファンレターを読んで、

「今、応援してくれている目の前のお客様を喜ばせよう。精一杯楽しんで満足していただく。」

このように考え実行し、歌い続けた結果が今の姿です。

トップアスリートも、長い間芸能界で活躍する人々も共通していることは応援されていること。誰かを応援したり、勇気付けたりするから応援される人になっていく。さらに、応援される人たちは、福に憑かれる三つの習慣のどれかを実行しています。そして、活躍するようになってからも三つの習慣のどれかを、もしくはすべてを実行し続けています。

人間は、ビックリするほど成長する生き物で、そこが人間の素晴らしいところでもあります。山本天晴のような老人は、必ず、現れます。そのチャンスに気が付き、実行できるかが人生を大きく左右する鍵となるのです。

世の中全てのことが、必ずどこかで繋がっています。だからこそ、この三つの習慣を身に付けましょう。見えなかったものが鮮明に見えてくるはずです。そして、ワクワクする人生を精一杯楽しみましょう。

第42回 体育大会 (10月9日)



～実行委員長：十屋 菜尋～
無事に体育大会を終えることができたのは、みなさんの協力があったからです。実行委員長をして、人前で話すことの緊張感や競技一つ一つ決めることの大変さを知ることができました。貴重な体験をさせていただき、本当にありがとうございました。

	青 団	赤 団	黄 団	白 団
団 長	団長になって、人をまとめることの大変さと体育大会の面白さを知りました。どの団も熱そうな炎が見えたように感じました。次は、高校ですが、果たせなかった W 優勝を目指して頑張りたいです。 赤木 琉桜	最後の体育大会、みんなが協力してくれたおかげですごく良い体育大会になりました。赤団団長として団をまとめることの大変さ、みんなで目標のために一つになって頑張ることの楽しさを知れて良い経験になりました。 好見 彪杜	「僕、団長やるわ！！」この一言で私は今までにない経験をすることができました。1・2年生へ伝えたいのは、最後まで何が起こるか分からない。それが体育大会だ。その分からない楽しさをとことん楽しめ。そしたら体育大会の意味が分かる。 黒木 寛太	体育大会は楽しかったです。でもすべてが楽しかった訳ではありません。どうしたらみんなをまとめられるか正直この一ヶ月は、副団長やリーダーは辛かったと思います。だから、達成感がすごいです。団長になって良かったです。 甲斐 秀門
副 団 長	副団長として目標である W 優勝をするために、積極的にコミュニケーションをとることを心がけました。改善点を出して伝えて、みんなが応えてくれてやりがいを感じました。また他の団全員で切磋琢磨して成長できたと思います。ありがとうございました。 島田 蘭	3年生にとって最後の体育大会になりました。副団長という立場で何をしたらいいかわからず不安もありましたが、1・2年生の支えもあり、何とか乗り越えることができました。協力してくれた方々に感謝でいっぱいです。 小田 楓	一人一人が支え合い協力することの大切さを学べた体育大会になったと思います。人と関わる大切さなどを教えてくれる「行事」というのはとても素晴らしく自分自身とも向き合わせてくれると思いました。 児玉 夏帆弥	前に立つことは苦手でしたが、最後まで責任もって仕事をやり遂げることができました。小さなことでも全力ですることで、自分の成長、力がたくさん身に付き良い経験ができました。あの時、可能性・チャンスを与えてくれた先生に感謝しています。 黒木 緒実



すべての一人一人が与えられた大切な役割を全力で果たす。だから、感動や感謝が生まれるのです。



台風14号の被害に遭われた方々へ、全校生徒や地域からお預かりした募金を、生徒の代表から、日向市社会福祉協議会へ寄付させていただきました。たくさんの方々の温かいお心配りに感謝申し上げます。誠にありがとうございました。